

シンポジウム

主催：北陸信越薬剤師会・富山県薬剤師会
共催：日本ジェネリック製薬協会

会場：3階大会場

平成23年11月5日(土) 午後3時～4時30分

テーマ：「なぜ、今ジェネリック医薬品か」

－ 持続可能な医療保険制度を目指して、薬剤師の役割 －

基調講演

演題：「なぜ、今ジェネリック医薬品か」

－ 持続可能な医療保険制度を目指して、薬剤師の役割 －

講師：一般社団法人 保険薬局経営者連合会 会長 山村 真一 先生

座長：前厚生労働省審議官、北海道薬科大学客員教授、岐阜薬科大学客員教授

岸田 修一 先生

パネルディスカッション：

座長：前厚生労働省審議官、北海道薬科大学客員教授、岐阜薬科大学客員教授

岸田 修一 先生

パネリスト：

一般社団法人 保険薬局経営者連合会 会長 山村 真一 先生

厚生労働省経済課後発医薬品使用促進専門官 松野 強 先生

富山大学大学院医学薬学研究部(薬学)特命教授 新山 雅夫 先生

JGA（日本ジェネリック製薬協会）

信頼性向上プロジェクト情報提供担当リーダー 小林 宏希 先生

【基調講演要旨】

テーマ：なぜ、今ジェネリック医薬品か

一 持続可能な医療保険制度を目指して、薬剤師の役割 一

一般社団法人 保険薬局経営者連合会 会長 山村 真一

昨今、本邦の財政状況は厳しさを増し、国民生活に必要な不可欠な基本的サービスである社会保障ですら、維持し続ける事が困難な局面を向かえおります。特に我々薬剤師に関係する医療・介護の領域も、税コスト産業であるが故に例外ではなくコスト削減の為にシステムの見直しが余儀なくされてまいりました。

医療保険制度の中で、医薬品の供給に貢献してきた薬剤師は、その適正使用には長年注力してきたものの、医療経済的視点でのコスト削減に関与出来てきたかという点、必ずしも十分であったとは言えませんでした。

しかし国の事情が急変した今、必要に迫られてという側面は否めませんが、薬剤師の医療経済的貢献に期待を込めた医療保険制度上の環境が整備され始めました。

我々薬剤師には、医薬品の適正使用という事だけではなく、医薬品の供給にあたり患者の経済的負担を軽減し医療費の削減を行い、持続可能な医療保険制度に貢献するという崇高なミッションが課せられております。

ジェネリック医薬品の使用促進はその一つのアクションであり、それは直近の我々の課題の中では最大かつ最重要な政策でもあります。

この大きな流れをポジティブに捉えるならば、日本の国民が必要としている医療保険制度を持続させていく事に、やっと積極的に貢献出来る環境が目の前に現れて来たという解釈も出来ます。つまり薬剤師の社会的存在意義のアピールのチャンスとも言える訳です。

もちろんジェネリック医薬品の使用を進めるためには、まだまだいろいろな課題や困難な点もありますが、それでもこのような困難を乗り越える意義と薬剤師の将来への期待を込めた役割について考えてみたいと思います。